

説教余滴、2018年2月11日、勇気あるスペイン人、

皆様のスペインに対するイメージは、どのようなものでしょうか。ひょっとすると負け組的なものではないでしょうか。黄金のヒスパニーヤ、を知っていただきたい、と願ってラス・カサスという人物をご紹介します。

バルトロメ・デ・ラス・カサス (Bartolomé de las Casas, 1484年8月24日 - 1566年7月17日) は、15世紀スペイン出身のカトリック司祭、後にドミニコ会員、メキシコ・チアパス司教区の司教。当時スペインが国家をあげて植民・征服事業をすすめていた「新大陸」(中南米)における数々の不正行為と先住民(インディオ)に対する残虐行為を告発。同地におけるスペイン支配の不当性を訴えつづけました。

1502年には、父親に続いてラス・カサス自らもインディアスに渡ることになり、新総督に任命されたニコラス・デ・オバンドと共にエスピノーラ島へ渡航、同地に滞在します。一帯はコロンブスの率いるスペイン軍による略奪と虐殺から始まる、アラワク族やルカヤン族)、タイノ族などのインディオ部族とスペイン人入植者との激しい戦いのなかにありました。1504年3月にはイグエイ地方のインディオの「反乱」鎮圧軍に加わっています。イグエイから戻ったラス・カサスはコンセプション・デ・ラ・ベガの近くでインディアンを奴隷として所有使役しながら、農場を営んでいます。

1506年、セビリアに戻ったラス・カサスは司祭職を志して下級叙階を受けました。1507年にはクリストバル・コロン(クリストファー・コロンブス)の息子ディエゴ・コロンのインディアスにおける特権回復の陳情のためローマへ赴き、そこで司祭に叙階されます。ディエゴの陳情活動は成功し、ディエゴはインディアス総督の任命をうけることができた。ディエゴとラス・カサスは1510年にインディアスに戻り、ラス・カサスは同地で初ミサをささげています。